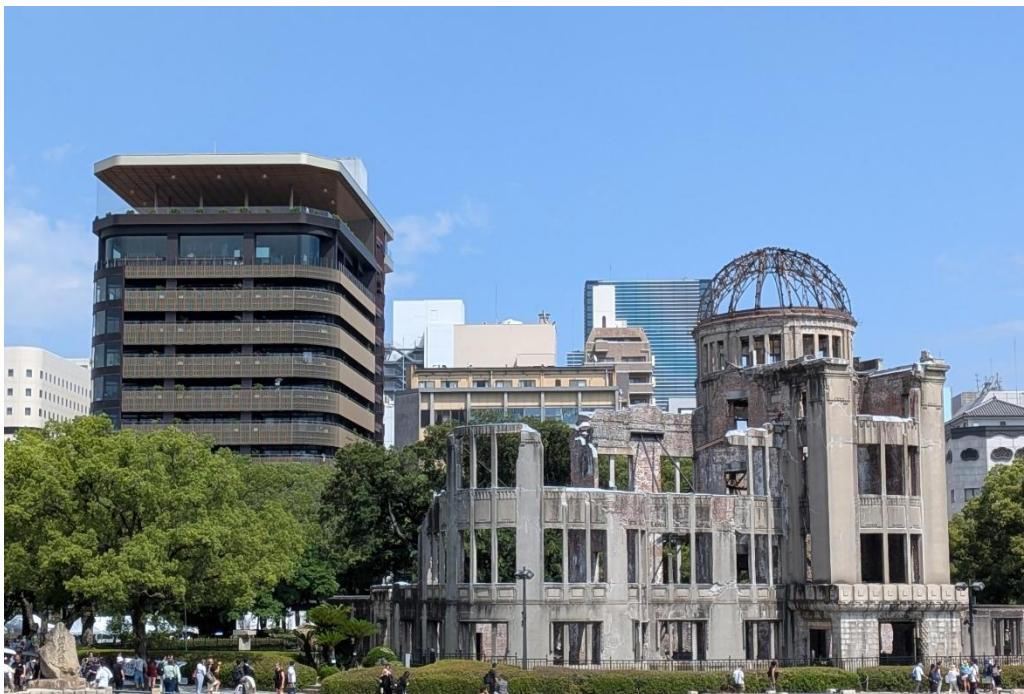


令和7年度（2025年度）

広島平和の旅 報告集

令和7年8月5日（火）～8月6日（水）



西東京市

もくじ

「広島平和の旅」 報告集発行にあたって	1
平和宣言	2
平和への誓い	4
参加者・旅程・事前学習会・旅先での様子	5
主な見学先ガイド	8
広島平和記念公園 周辺ガイドMAP	9
感想文	10
非核・平和都市宣言（西東京市）	23

「広島平和の旅」 報告集発行にあたって

西東京市は、平成 13 年（2001 年）1 月 21 日、旧田無市と旧保谷市との合併と同時に、「西東京市平和推進に関する条例」を制定しました。翌年の平成 14 年（2002 年）1 月 21 日には、「非核・平和都市宣言」を行い、毎年 4 月 12 日の「西東京市平和の日」をはじめとした様々な機会に、戦争体験を次世代に継承する取組みや、平和の意義を考えていく事業を行っています。

被爆都市へ公募市民と共に訪問する事業は、平和事業の推進・啓発活動の一環として、平成 13 年度（2001 年度）から実施しています。

広島・長崎への原爆投下、そして終戦から 80 年が経過しました。戦争を知る世代が次第に少なくなり、戦争の記憶が薄れることができます。危惧されています。

今年は合計 6 人の市民の方々が広島を訪れました。平和記念式典への参列をはじめ、原爆ドームや平和記念資料館の見学、被爆体験伝承者の講話等をとおして、原爆や戦争がもたらす悲惨さや平和の大切さ、命の尊さについての理解を深め、この時期に広島を訪れるこの意味を改めて考えるなど、多くの体験を持ち帰りました。

この報告集は、旅の様子や参加者の皆さんのが得たことを多くの方に共有していただけるよう纏めたものです。この報告集が、平和を考えるきっかけになれば幸いです。

令和 7 年 8 月

西東京市

平和宣言

今から80年前、男女の区別もつかぬ遺体であふれかえっていたこの広島の街で、体中にガラスの破片が突き刺さる傷を負いながらも、自らの手により父を荼毘に付した被爆者がいました。「死んでもいいから水を飲ませて下さい！」と声を振り絞る少女に水をあげなかったことを悔やみ、核兵器廃絶を叫び続けることが原爆犠牲者へのせめてもの償いだと自分に言い聞かせる被爆者。原爆に遭っていることを理由に相手の親から結婚を反対され、独身のまま生涯を終えた被爆者もいました。

そして核兵器のない平和な世界を創るためにには、たとえ自分の意見と反対の人がいてもまずは話をしてみることが大事であり、決してあきらめない「ネバーギブアップ」の精神を若い世代へ伝え続けた被爆者。こうした被爆者の体験に基づく貴重な平和への思いを伝えていくことが、ますます大切になっています。

しかしながら、米国とロシアが世界の核弾頭の約9割を保有し続け、またロシアによるウクライナ侵攻や混迷を極める中東情勢を背景に、世界中で軍備増強の動きが加速しています。各国の為政者の中では、こうした現状に強くとらわれ、「自国を守るためにには、核兵器の保有もやむを得ない。」という考え方方が強まりつつあります。こうした事態は、国際社会が過去の悲惨な歴史から得た教訓を無にすると同時に、これまで築き上げてきた平和構築のための枠組みを大きく揺るがすものです。

このような国家が中心となる世界情勢にあっても、私たち市民は決してあきらめることなく、真に平和な世界の実現に向けて、核兵器廃絶への思いを市民社会の総意にしていかなければなりません。そのために、次代を担う若い世代には、軍事費や安全保障、さらには核兵器のあり方は、自分たちの将来に非人道的な結末をもたらし得る課題であることを自覚していただきたい。その上で、市民社会の総意を形成するための活動を先導し、市民レベルの取組の輪を広げてほしいのです。その際心に留めておくべきことは、自分よりも他者の立場を重視する考え方を優先することが大切であり、そうすることで人類は多くの混乱や紛争を解決し、現在に至っているということです。こうしたことを踏まえれば、国家は自国のことのみに専念して他国を無視してはならないということです。

また、市民レベルの取組の輪を広げる際には、連帯が不可欠となることから、「平和文化」の振興にもつながる文化芸術活動やスポーツを通じた交流などを活性化していくことが重要になります。とりわけ若い世代が先導する「平和文化」の振興とは、決して難しいことではなく、例えば、平和をテーマとした絵の制作や音楽活動に参加する、あるいは被爆樹木の種や二世の苗木を育てるなど、自分たちが日々の生活の中で

できることを見つけ、行動することです。広島市は、皆さんに「平和文化」に触ることのできる場を提供し続けます。そして、被爆者を始め先人の助け合いの精神を基に創り上げられた「平和文化」が国境を越えて広がっていけば、必ずや核抑止力に依存する為政者の政策転換を促すことになります。

世界中の為政者の皆さん。自國のことのみに専念する安全保障政策そのものが国と国との争いを生み出すものになってはいないでしょうか。核兵器を含む軍事力の強化を進める国こそ、核兵器に依存しないための建設的な議論をする責任があるのでないですか。世界中の為政者の皆さん。広島を訪れ、被爆の実相を自ら確かめてください。平和を願う「ヒロシマの心」を理解し、対話を通じた信頼関係に基づく安全保障体制の構築に向けた議論をすぐにでも開始すべきですか。

日本政府には、唯一の戦争被爆国として、また恒久平和を念願する国民の代表として、国際社会の分断解消に向け主導的な役割を果たしていただきたい。広島市は、世界最大の平和都市のネットワークへと発展し、更なる拡大を目指す平和首長会議の会長都市として、世界の8,500を超える加盟都市と連帯し、武力の対極にある「平和文化」を世界中に根付かせることで、為政者の政策転換を促していきます。核兵器禁止条約の締約国となることは、ノーベル平和賞を受賞した日本原水爆被害者団体協議会を含む被爆者の願いに応え、「ヒロシマの心」を体現することにほかなりません。また、核兵器禁止条約は、機能不全に陥りかねないNPT核兵器不拡散条約が国際的な核軍縮・不拡散体制の礎石として有効に機能するための後ろ盾になるはずです。是非とも来年開催される核兵器禁止条約の第1回再検討会議にオブザーバー参加していただきたい。

また、核実験による放射線被害への地球規模での対応が課題となっている中、平均年齢が86歳を超え、心身に悪影響を及ぼす放射線により、様々な苦しみを抱える多くの被爆者の苦悩にしっかりと寄り添い、在外被爆者を含む被爆者支援策を充実することを強く求めます。

本日、被爆80周年の平和記念式典に当たり、原爆犠牲者の御靈に心から哀悼の誠を捧げるとともに、決意を新たに、人類の悲願である核兵器廃絶とその先にある世界恒久平和の実現に向け、被爆地長崎、そして思いを同じくする世界の人々と共に、これからも力を尽くすことを誓います。

令和7年（2025年）8月6日

広島市長 松井 一實

平和への誓い

いつかはおとずれる、被爆者のいない世界。

同じ過ちを繰り返さないために、多くの人が事実を知る必要があります。

原子爆弾が投下されたあの日のことを、思い浮かべたことはありますか。

昭和 20 年（1945 年）8 月 6 日 午前 8 時 15 分。

この広島に人類初の原子爆弾が投下され、一瞬にして当たり前の日常が消えました。

誰なのか分からぬいくらい皮膚がただれた人々。

涙とともに止まらない、絶望の声。

一発の原子爆弾は、多くの命を奪い、人々の人生を変えたのです。

被爆から 80 年が経つ今、本当は辛くて、思い出したくない記憶を伝えてくださる被爆者の方々から、直接話を聞く機会は少なくなっています。

どんなに時が流れても、あの悲劇を風化させず、記録として被爆者の声を次の世代へ語り継いでいく使命が、私たちにはあります。

世界では、今もどこかで戦争が起きています。

大切な人を失い、生きることに絶望している人々がたくさんいます。

その事実を自分のこととして考え、平和について関心をもつこと。

多様性を認め、相手のことを理解しようとすること。

一人一人が相手の考えに寄り添い、思いやりの心で話し合うことができれば、傷つき、悲しい思いをする人がいなくなるはずです。

周りの人たちのために、ほんの少し行動することが、いざれ世界の平和につながるのではないかでしょうか。

One voice.

たとえ一つの声でも、学んだ事実に思いを込めて伝えれば、変化をもたらすことができるはずです。

大人だけでなく、こどもである私たちも平和のために行動することができます。

あの日の出来事を、ヒロシマの歴史を、二度と繰り返さないために、私たちが、被爆者の方々の思いを語り継ぎ、一人一人の声を紡ぎながら、平和を創り上げていきます。

令和 7 年（2025 年）8 月 6 日

こども代表 広島市立皆実小学校 6 年 関口千恵璃

広島市立祇園小学校 6 年 佐々木駿

参加者・旅程・事前学習会・旅先での様子

参加者

○平井 好夫さん ○三浦 純一さん ○大東 可奈さん ○大東 千隼さん
○遠藤 志保里さん ○遠藤 志恩さん

計6人

旅 程

■1日目 8月5日(火)		■2日目 8月6日(水)	
時 間	内 容	時 間	内 容
08:30	東京駅より新幹線で広島へ	08:00	平和記念式典参列、献花
12:27	広島駅到着	10:00	爆心地 見学
13:00	原爆ドーム、原爆の子の像、相生橋、 旧日本銀行広島支店、平和記念資料 館 見学	14:18	広島駅より新幹線で東京へ
		18:15	東京駅到着 解散

事前学習会

7月25日(金)の午後6時から、広島平和の旅がより意義深いものになるように、事前学習会を行いました。

旅の主旨、行程、報告会等についての説明に加え、「非核・平和をすすめる西東京市民の会」の山本会長より、自身が広島に訪れた経験を交えながら広島の話をしていただき、他の非核・平和をすすめる西東京市民の会のメンバーからは、西東京市の戦争被害の様子を説明していただきました。

また、事前学習会のなかでは、被爆体験伝承者の野田信枝さんをお招きし、当時7歳にして被ばくした末岡昇さんの被爆体験を通して「戦争を絶対にしてはいけない、命を大切にしてほしい」という思いをお伺いしました。

戦争のリアルな様子として、生きる気力を失い自ら死を待つ女性や、遺体を目の前にしても気に留めることのない人々など、「死」に慣れてしまった当時の広島の様子を知り、戦争は人の体だけではなく心までも殺してしまう恐ろしいものだと感じました。

旅先での様子

○1日目

広島へ出発

8月5日土曜日の朝、東京駅に集合し、新幹線で広島へ向かいました。

原爆ドーム、原爆の子の像、相生橋、平和記念資料館の見学

広島に到着後、路面電車に乗り、平和記念公園へ向かいました。

路面電車の原爆ドーム前駅で下車し、目の前に平和記念公園が広がります。

公園では、蝉の声が騒がしく、公園内を進むと、原爆ドームが見えてきます。様々な国籍の方が見学に訪れており、昨今の平和への意識の高さを感じさせます。原爆ドームの隣には、テントが設営されており、そこでパネル展も開催されていて、原爆投下後の惨劇を紹介していました。



その後、相生橋を渡りました。相生橋は、原爆投下の落下目標とされた場所です。結果的に相生橋よりも東側にて原爆は炸裂することになりますが、原爆の被害により水を求める人々がいたという事実を思い起こさせます。

また、原爆の子の像では、たくさんの折り鶴が捧げられており、全国各地から平和への祈りが集まっていました。参加者の一人が地域の皆で折った鶴を事前に送付していましたが、たくさんの折り鶴の中から見つけることはできませんでした。

その後、平和記念資料館を訪れ、被爆した遺品等を見学しました。悲惨な被害の様子について、参加者は真摯に受け止めていました。

○2日目

平和記念式典への参列

翌8月6日も暑く、帽子・日傘等の熱中症対策をとりながら平和記念式典に参加しました。会場内では、冷却ミストの噴射やおしほり、冷水サー



ビスもありましたが、酷暑により汗ばむ姿が印象的でした。

日本各地からはもちろん、外国から多くの参列者が訪れ、平和への想いをもった大勢の人であふれていきました。式典では、原爆死没者の名簿が奉納され、午前 8 時 15 分に平和への祈りと被爆者への慰靈の念を込めて、黙とうを捧げました。広島市長による「平和宣言」、こども代表による「平和への誓い」に加え、国際連合事務総長のメッセージ(代読)を聞き、世界中が平和になることへの想いを新たにしました。



式典終了後には、犠牲となった方々のご冥福と平和への願いを込めて慰靈碑に献花しました。式典に参加した参加者からは、式典で発せられた平和への決意を実際に聞いたことで自分には何ができるのか、平和とは何なのかを改めて考える時間になったという声もありました。

爆心地の見学

平和記念式典後の献花を終え、徒歩で爆心地へ向かいました。人類史上最初に使用された原爆は、上空約 600 メートルでさく裂しました。爆心地となった一帯は、約 3,000~4,000 度の熱戦と爆風や放射線を受け、ほとんどの人々が瞬時にその命を奪われたとされています。皆で上空を見上げ、祈りを捧げました。

○終わりに

2日間とも厳しい暑さの中で行われた広島平和の旅でしたが、参加された方々のご協力によって、無事に全行程を終えることができました。

今回の旅が、平和な社会を築くための糧になることを祈りつつ、参加者一同が帰路につきました。



主な見学先ガイド

●平和記念公園

戦後、世界の恒久平和の願いを込めて、この記念公園が建設されました。公園内には、平和記念資料館、国立広島原爆死没者追悼平和祈念館などの施設や、原爆死没者慰靈碑をはじめとするモニュメントがあります。



●広島平和記念資料館

原爆の被害の実態を伝える資料を収集・展示し、広島で起こったこと、平和の尊さと核兵器の脅威を紹介しています。



●原爆ドーム

チェコの建設家ヤン・レツルの設計により、大正4年（1915年）に開館したこの建物は、被爆前は「広島県産業奨励館」でした。原爆は、ここから南東 160mの上空約 580mで炸裂し、建物は廃墟の残骸となりました。



平成8年（1996年）、ユネスコの世界遺産に登録されました。

●原爆死没者慰靈碑（公式名：広島平和都市記念碑）

平和記念公園のほぼ中央にあるこの慰靈碑は、原爆犠牲者の靈を雨露から守る願いを込めて、家型ハニワに設計されました。石室には、原爆死没者名簿が納められています。



●原爆の子の像

この像は、原爆性白血病により 12 歳で亡くなった佐々木禎子さんの靈を慰め、世界平和を呼びかけるため、昭和33年（1958年）に建設されました。たくさんの千羽鶴が捧げられています。



広島平和記念公園 周辺ガイドMAP



感 想 文

広島平和の旅に参加した皆さん、それぞれの想いを胸に、被爆地広島を訪れました。そして、たくさんのことを見て・聞いて・感じてきました。

ここには、広島平和の旅を通して印象に残ったことを、ありのままに書いていただきました。

今回、旅に参加した皆さんには、広島はどう映り、何を感じたのでしょうか。



※原則として、感想文などは原文のまま掲載しています。

広島へのはじめての旅

三浦 純一

私が西東京市の市民と共に訪問する事業を知ったのは、西東京市転入から、15年が経過した、令和7年6月1日に配布された広報誌でした。

これまで、毎年テレビや新聞を通して入ってきた情報を、自分で現地で体験したくて、申込フォームから即座に申し込みました。

今回、小学生2名とその親御さんを含め、5名とご一緒させていただくことになりました。

出発前の参加者、市の協働コミュニティ課岩間様と倉本様との顔合わせも兼ねた、被爆体験伝承者による事前学習会で原爆について勉強した上の被爆地訪問です。

8月5日（火）の前日、広島の象徴、原爆ドームに到着。当時のものが、そのまま残っていて、原爆パネル展とともに見て回り、その後行った平和記念資料館で見た、被爆から7年後に発掘された遺骨のパネルが見るに堪えないほど、忘れられないものとなりました。

8月6日（水）の当日、平和記念式典に参列。過去最多、5万5千人が参列。広島市の松井市長の平和宣言を聞いて、核兵器のない、戦争のない、対話で問題解決する平和な世界でありますようにと、改めて考えさせられました。

最後に、今回の旅に参加された、参加者の皆様。市の協働コミュニティ課の岩間様と倉本様。JTBの大西様。この度は、大変お世話になりました。心よりお礼申し上げます。

皆様方と、宮島へ行ったこと。池澤市長様と夕食をご一緒させていただいたこと。

すべてが、自分自身の人生の糧になりましたし、一日一日、徳を積むことを意識して、生活して参ります。



旅に参加する前の広島のイメージ

- ①. 原爆ドーム ②. 原爆ドーム ③. 広島カーポ
- ④. 吉川晃司、奥田民生（歌手、俳優）
- ⑤. 広島焼き ⑥. マツタケ自動車
- ⑦. 8月6日

旅に参加した後の広島のイメージ

- ①. 広島路面電車 ②. 世界遺産・宮島
- ③. G7広島サミット記念館
- ④. 広島平和記念資料館
- ⑤. 原爆ドーム ⑥. 原爆の子の像（折鶴が沢山）
- ⑦. 広島平和記念式典に参列



広島平和の旅に参加して

平井 好夫

蝉の鳴く季節になると、広島・長崎・終戦記念日と、平和についての語りが世間に広まります。

今回の旅に参加して、原爆のおそろしさは、想像を絶するものでした。

戦争は人間が意図的に行った最悪の凶器であり、最低の狂気のさたです。愚かな指導者が屁理屈を付けて行うのが戦争であると思った！！

核は抑止力などという連中に『平和記念資料館』の展示物が自分・両親又は子供・孫の物であったら抑止力の為に必要などと言っているか！？

私達一人一人が今おかれた立場で、戦争は絶対悪で核などはもってのほかである事を語り続ける事が大事であると思った。

くしくも、たまたま何年か前に佐々木貞子さんの新聞記事を目にして、千羽鶴を作つて広島・長崎に贈ろうと高齢者ボランティアの活動に取り入れて、7月上旬に広島と長崎に送った！！ ガラスで作られた千羽鶴の建物を探したが私達の送ったのは発見できなかったがこの中にあると思うと感動して写真をとりまくった。そして仲間達に観せた！！

今回の広島平和の旅に参加して、今自分達（高齢者）が出来る事は、身近な家族や友人等々に対話と今やっている千羽鶴折りを持続して、小さな事から一步一步楽しく仲良く進めていければ幸いです。



旅に参加する前の広島のイメージ

どちらか 大事なよね～

『世界平和』 漠然として感じて
 『戦争反対』 } 第三者的 !!

旅に参加した後の広島のイメージ

『世界平和』どちらも
 『戦争反対』 私に出来る事はないが !!

若者に伝えて 行かなければ
 風化エロてしまう

具体的に実行しひければ 平和は
 進まない !!



広島に行って

大東 千隼

ぼくは夏休みに母といっしょに、「広島平和の旅」一泊二日に参加しました。原爆や平和について、実際に見て学びたいと思ったからです。

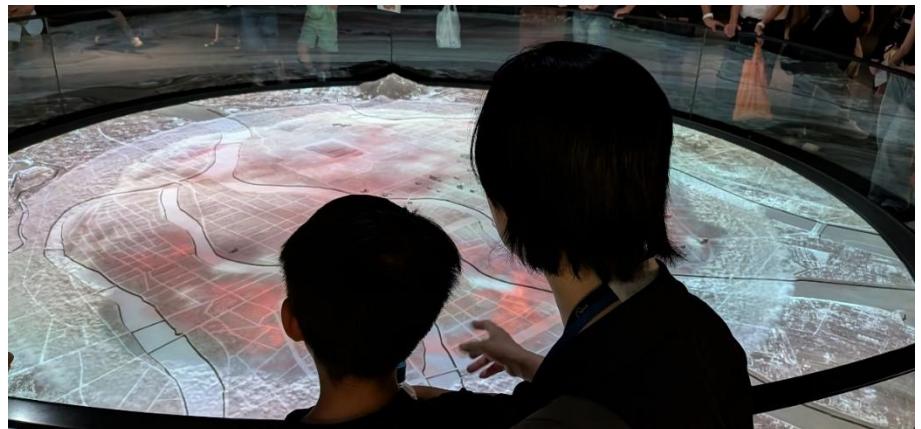
一日目は、路面電車に乗って原爆ドームを見に行きました。今も残っている原爆の被害を受けた建物を見て、「本当にここに原爆が落ちたんだ」と思うところになりました。その後、爆心地の病院や相生橋、旧日本銀行などを見学しました。平和記念資料館では、たくさんの写真や展示を見て、戦争や原爆がどれだけひどいものかを知りました。黒く焼けたお弁当箱や、こげた服などを見たときは、切なくなりました。

二日目は、平和記念式典に出ました。原爆が落とされた時間、8時15分に黙とうをしました。ぼくも心の中で「もうこんなことが起きませんように。」と願いました。式典のあとに、花をそなえてお祈りをしました。テレビの報道でも広島のことをやっていたが、実際に見たことで僕は当時の人の苦しみや痛みをより深く知ることができたと思いました。

戦争のない、平和な世界になってほしいと思います。そして、ぼくもそのために何かできる人になりたいです。先ずは広島に行って学んだ事を忘れないで、周りの人に伝えたいと思います。

旅に参加する前の広島のイメージ

- 原爆
- 原爆ドーム
- 平和式典
- お好み焼き



旅に参加した後の広島のイメージ

- 原爆投下 1945年8月6日 8時15分
- 原爆ドーム
- 原爆をもう使てはいけない
- 原爆の子の像
- 折りづる
- 折りづるタワー
- カーブ
- 広島焼き
- 平和式典
- 相合木橋
- 路面電車
- 資料館

平和の旅に参加して

大東 可奈

市報の片隅に現在の市民の人数が書いてあります。2025年8月1日20万6740人。

広島で80年前の1945年8月6日8時15分、一発の人類史上初の原子爆弾が落とされました。熱風3000~4000度、一瞬にして人や建物木々も辺りは焼き尽くされ、放射能という目に見えないもので、看病に当たった人も被爆していく。その年の12月までに14万人の方が亡くなっていると事前学習会の時に教えていただきました。西東京市民の内の14万人としたら、もっと身近に感じる事ができるだろうか。

一瞬にして失われた命の叫びや嘆き、生き残った方たちの想像もできなかつた苦痛や苦労を事前学習会の被爆伝承者の講話や、現地広島の平和記念資料館の展示物から、また平和記念式典での祈りや帰宅してからの市のパネル展示物から学び、一層平和について考える事が出来ました。

特に広島平和記念資料館で見た80年前の学生服が私は忘れられません。着ていた本人の遺体や遺骨は見つからなかったそうです。母親が必死に探してあったのは我が子の名前が書かれた学生服のみ。どんなに悲しかっただろうか展示物を見て涙が止まりませんでした。

広島では8月6日は戦没者慰靈と平和を祈ることが子どもの頃から当たり前に行われているそうです。今までの私にとって、8月はテレビで観る終戦記念の月。何年経っても、戦争があった事の実感や唯一の被爆国である事すら、忘れて日常を過ごしていました。

今年、11歳の息子と“広島平和の旅”に参加し、80年前のあの日、あの場所で、キノコ雲の下で起きた事、その後の復興や今をしっかりと見つめる事が出来たことはとても貴重な経験となりました。

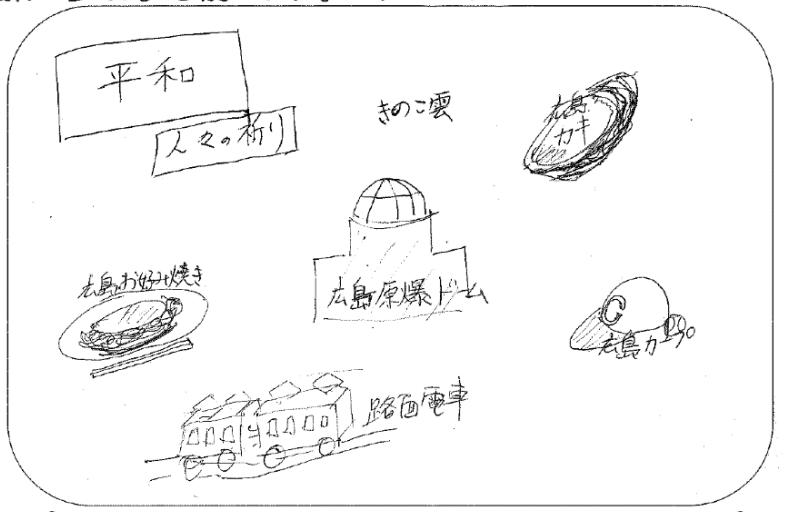
祈るだけではなく、原爆の恐ろしさや、一発の核兵器で平和は一瞬に無くなることを自分の周りの人に伝えていきたいです。

戦争を起こしてはならない、過ちは繰り返さないと自らが心から感じて、伝

えて行く人が多ければ多い程、世界が平和に近付いていけるのではと思います。



旅に参加する前の広島のイメージ



旅に参加した後の広島のイメージ

8/6 平和記念式典 (2025年、終戦80年)

広島 平和記念資料館

平和記念公園・平和の鐘

原爆ドーム (世界遺産として1996年登録)

島病院 (爆心地) 3000度～4000度の熱線や爆風

平和～皆で意識して核爆弾禁止を声に出して行動すれば!

マツダ車、サンフレッチェ広島、カープ広島、厳島神社、宮島の島、海の家
建つ鳥居、せせらじまんじゅう、生もせじ、おりづるタワー、力丸、広島お好み焼き

路面電車、広島駅2F直結!

きのこ雲の下のこと、復興



当たり前の幸せ

遠藤 志恩

わたしは、本が大好きです。たくさんの本を読む中で、現代の女子高生が戦時中にタイムスリップするお話がありました。わたしが戦争について、もっと知らなければいけないと感じたのはこの本がきっかけです。そして今回の西東京市広島平和の旅に参加させて頂きました。

一日目は原爆ドームと平和記念資料館に行きました。原爆ドームはそこだけが時代に取り残されたような異様なふんいきでした。こんな頑丈そうな建物が一瞬にしてこんなになってしまふのかと絶望しました。また資料館には、この世の出来事なのかと目を疑うような写真がたくさんかざられていました。特に同じ年位の子どもの灰になったお弁当箱を見たときに、心に響き、深く考えさせられました。原爆や戦争のせいで一生拭いきれない傷を負った人たちのことを知ることができました。

一日目の夜に宮島に行きました。鹿にも会えてとても嬉しかったです。いつも島神社から見た月は、とてもキレイでした。水面にうつる月光を見て、ふと思いました。こんなふうに月を見られることも、いろんな人たちと出会い笑い合えることも、当たり前ではないということに気が付かされました。わたしたちの今の当たり前の幸せは歴史のぎせいの上に成り立っているのです。

二日目は、平和記念式典に参列しました。茹だるような暑さの中、平和を祈りました。広島の六年生二人が、原爆のことを語り、平和をちかう姿が目に焼き付きました。

衣食住が整い、病気になつたら病院に行ける。そして何よりも家族と安全に過ごす事ができている。わたしたちはこんな当たり前のことを当たり前と思わず、これこそが幸せと日々感謝するべきです。ちっぽけなわたしには、世界の戦争を止めることはできません。でも、日常を平和に過ごせることを幸せだと感じ感謝することはできます。そしてその日常がこれからもずっと続くように平和を祈り、過去の戦争という過ちを二度と繰り返しません。



旅に参加する前の広島のイメージ

単戦争を中心となつてひがいをうけた県。
まだ世界で2つだけのげんばくを落とした場所の1つ。
げんばくドームがある。
もみじまんじゅうや、広島焼が有名！

旅に参加した後の広島のイメージ

戦争は2度と起らることはいいないと思いました。
今では、当たり前に食べることができるおべんとうは、
原爆で灰になりました。（平和資料館）
原爆ドームも、そこだけ昔のまのようないようないふうにさ
ざした。広島は、今ではとてもステキな県になつてゐるけれど、
たくさん的人が苦しんだ場所でもあります。
あたしには、広島が、げんばくとはどんなにモ闪闪とたくさんの
人を苦しめるか、死んで伝えようとしているように見えました。



子どもたちの未来のために

遠藤 志保里

市報で広島平和の旅の募集を見て、すぐに小学校三年生の娘と応募しました。娘に戦争の歴史や、平和の大切さを教える良い機会だと思いました。

事前勉強会では、被爆体験伝承者のご講話などをして頂きました。実際に被爆された方の経験を伝承者の方を通して聞かせて頂き、一瞬にして日常を奪ってしまう原爆はおそろしいと痛感しました。また西東京市に長崎に落とされた原爆と同じ型の模型が落とされていたと知り、すぐ身近に戦争の歴史があるのだと実感しました。

広島平和の旅一日目は、原爆ドームへと向かいました。平和記念式典の前日ということもあり、大変混雑していたのですがその中でも外国籍の方の多さに驚かされました。世界で唯一の被爆国として、非核や平和祈念のシンボルである原爆ドームはこれからもずっと大切に受け継いでいかなければならないなど日本国民としての義務のようなものをそこで感じました。

二日目はいよいよ平和記念式典です。厳かな雰囲気の中、緊張で空気がピンと張っていました。子ども代表による『平和への誓い』では、わたしたち大人がこの子たちの平和な未来のために決して間違いを起こしてはいけないと改めて痛感させられました。

広島平和の旅を通じて、娘にたくさんのことを感じ学び取ってほしいと考えておりましたが私も平和について考えさせられる良い機会となりました。

唯一の被爆国として、今後も平和で安全な世界を実現できるよう、今回学び感じたことを伝え続けようと思います。

また、市長含め同行して下さった市職員の方々のきめ細やかな対応に触れ大変感動致しました。誠にありがとうございました。

最後にこのような貴重な機会を頂き、また平和の旅実現のためにご協力、ご支援くださった方々に心より御礼申し上げます。



旅に参加する前の広島のイメージ

- ・原爆を受けた門、原爆ドーム
- ・モミエミンヅク
- ・官島
- ・広島焼き

旅に参加した後の広島のイメージ

- ・世界で最初の被爆した県として、平和として非核への責任を持ち平和祈念を日本中のどこへも行っている場所
- ・広島に住む人々が、8月6日の原爆の日に向か一丸となり平和祈念を行っている。
- ・広島の市街地は、まだヨーロッパのようないい街並み、市街地より一時間程の距離にある官島、対照的な二つの場所から、それを絆歴史を感じさせるノスタルジックな雰囲気。



非核・平和都市宣言

私たちは生きている。
おおくの人々が、それぞれの習慣や宗教をもち
様々な考え方と、異なる環境の下で生活している
この地球で

私たちは持っている。
この地球上で、健康で幸せな生活をする権利を
異なる考え方の人々を差別しない義務を

私たちは知っている。
おおくの人々が、今なお戦争で傷つき命を失っていることを
住みなれた平和な生活の場を追わされて飢えていることを

私たちは訴える。
必要なのは笑顔での話し合いであることを
必要なのは人類愛と思いやりであることを

私たちは宣言する。
あらゆる人を傷つける地雷や武器をなくすことを
あらゆるもののは滅を招く核兵器をなくすことを
地球上から戦争をなくすことを

私たち市民のこの声と願いを
世界に広く訴えるために
非核・平和都市 西東京市の
宣言とする。

平成14年1月21日
西 東 京 市



「広島平和の旅」報告集

令和7年8月

編集・発行

西東京市 生活文化スポーツ部 協働コミュニティ課